



## 友達を思う心

校長 松崎 由里子



「うわあ。きれい。」観光バスから、歓声があがりました。11月8日。日光いろは坂の紅葉の美しさは、小学生でも思わず声上がるほどの鮮やかな色。本来、7月に行っていたはずの修学旅行でしたが、まん延防止等重点措置のため、この時期まで延期。分散登校で始まった夏休み明けごろには、修学旅行が実施できるかははらしましたが、感染者数も減少、無事に行うことができました。

1日目は、雨天の予報でしたが、私たちが活動するたびに雨はやみ、虹が出たり、青空になったりしました。だいや川公園では、アスレチックを堪能。ぬかるんで足元の悪い中、活動班で励まし合いながら歩いた戦場ヶ原ハイキングでは、ゴールの湯滝のアイスが大人気。益子焼の絵付けには一人も声を発することなく真剣に取り組み、夜のキャンプファイヤーでは、「日光だ ホイ」「落ちた 落ちた」などのレクのほか、「やってみよう」のダンスなど、思い切り楽しむことができました。ファイヤーの振り返りでは、「卒業まであと少し」という言葉も聞かれ、消えゆく炎を見つめながら、修学旅行に来られた事の喜びとともに、この仲間と一緒に過ごす時間が限られてきていることを感じ、胸が熱くなりました。2日目は霧が立ち込める華嚴の滝、大雨にもかかわらず大混雑の東照宮を見学しました。びしょぬれになりながらも文句を言うことなく、班のメンバーで声を掛け合いながら行動した6年生。きっと、一生忘れない思い出となることでしょう。

9月に予定していた5年生の富士宿泊体験学習も11月17、18日に延期となり、もともと11月14日、15日に予定していた4年生の上郷宿泊体験学習とともに、2週間で3つの宿泊行事を行いました。



2日間、寝食を共にし、活動班、部屋班など、ふだんあまり接することのない友達と一緒に、自然や文化に触れ合いながら活動する修学旅行や宿泊体験学習。なかなか支度ができない友達をそっと待つ、さりげなく手伝う、一緒に活動する中で感動を分かち合うなど、鳥小の子どもたちは、どの学年も、友達に対して、とても優しくふるまう姿を見せてくれました。この優しさのものは、「友達を思う心」なのではないかと思いました。臨時休業があったり、分散登校があったりしたからこそ、友達と一緒に活動することの価値を感じ、「友達を思う心」を育てているのかもしれない。この育ちを、次は、運動会で発揮してくれることを期待しています。